



おじさんズ通信

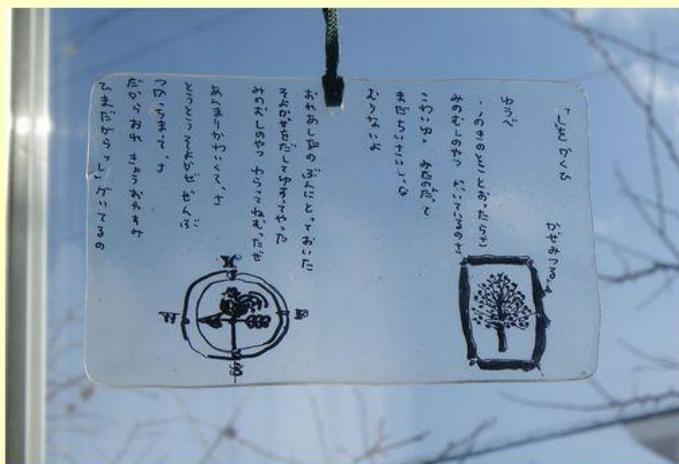
2022年2月号 (No.15)

発行元：登別市新生町4丁目桃柿通

緑風舎

発行者：おじさんズ3号

バックナンバーは「おじさんズ」のホームページでどうぞ



「し」をかくひ かぜみつる

ゆうべ
くりのきのところとおったら、さ
みのむしのやつ ないているのさ
こわいゆめ みたのだって
まだちいさいし、な
むりないよ

おれ あしたのぶんに
とつておいた

そよかぜをだして ゆすつてやった
みのむしのやつ わらってねむったぜ

あんまり かわいくて、さ
とうとう そよかぜ ぜんぶ
つかっちまって、さ
だから おれ きょう おやすみ
ひまだから「し」かいてるの

上の写真は、詩人の工藤直子さんの詩集「のはらうた」に収められた作品『「し」をかくひ』を、プラ板に書き写したものだ。作ったのは、30年程前に当時小学生だった知人の女の子。どういうわけか、最近、我が部屋にひょっこりやってきた。工藤さんは「かまきり りゅうじ」や「ありんこ たくじ」など、作品ごとにユニークな名前を用いる自由奔放詩人で、この詩もペンネームは「かぜ みつる」。ときの流れとともに、幾多の人の手を経た証しか、一部、文字がかすれているので、勝手ながら全文を紹介し、このご時世、声に出して読んで、風の気持ちに寄り添っていただければ幸いです。

郷土史を知る・その1

市民活動サポーター
おすすめ郷土資料

ボランティアで登別関係の年代物資料・書籍などを、市立図書館のホームページ(HP)の「市民活動サポーターおすすめ郷土資料」コーナーで順次紹介しています。

で、最近いよいよネタが尽きたかなと思案していたら、ふとひらめきました。「登別町史」(昭和42年発行)の巻末に載っている地区別古老回顧座談会を紹介するのも、一計かな…と。

言い伝え的な話もあろうが、当時の長老たちが語っていることだから、温故知新の妙もある。図書館HPへの掲載は先になるが、ほんの一部ながら歴史の証言者たちの声に耳を傾けると一。

幌別沖貨物船座礁

篠原 あれはアメリカに行く船だったかね。

司会 どこ船でしたか。

志賀 日本の船には間違いないけれども、アメリカ通いの船だったから大きかった。

司会 外国船航路だね。座礁したのはどこですか。

室 幌別と富岸の間さ。

司会 あがったんですか。シケたんですか？

室 進路を間違ったんだね。

篠原 九月の十九日か二十日だったか、えらくガスがかかって…。

司会 座礁したんですな。何年頃ですか、それは。

篠原 そうですね。私が二十五の時だから大正八年かな。

以上は、「登別町史」第4章「往時を語る」と題して昭和40年に現登別公民館で行われた座談会のひとコマ。この町史を読むまで、幌別海岸のすぐ近くに愛媛県船籍の貨物船「陽天丸」が濃霧のために座礁、沈没したことをまったく知りませんでした。

7千トン級の米国行き貨物船は座礁した後、半分に折れ解体の運命に。完全に海の藻屑となるのに3年の歳月を要したとか。

座談会の続きが面白い。

志賀 あのなんだよ。船のみよし(船首)の方が、どこかがしばらく見えていたよな。

室 あゝ見えとったね。

志賀 ちょうど「私はここに沈没しました」というようにね。それが長い間そのままになっていたからね。

タイムマシンに乗って、陽天丸昇天のてん末を見に行きたいものです。

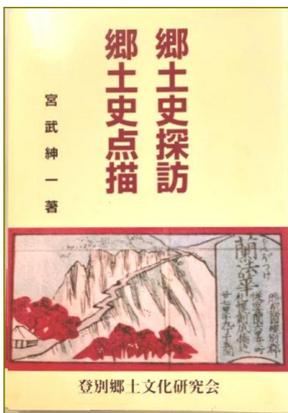
郷土史を知る・その2

その「陽天丸」座礁の話も載っているのが、登別の著名な郷土史家、故・宮武紳一氏が書き残した「郷土史探訪・郷土史点描」（平成20年2月発行、発行者・登別郷土文化研究会）。中学時代、社会科の授業で教壇に立ち、「蝶々」と「町長」を掛け合わせたダジャレで生徒たちを笑わせようとしたことを、今でも覚えています。

東京からリクエストが

機会があれば、この本も「おすすめ郷土資料」コーナーに載せたいと思っていたところ、教育委員会経由で「掲載予定はないか」との問い合わせあり。聞くと「東京登別げんきかい」のメンバーからのリクエストだという。

こりゃあ、渡りに舟だ。早速、宮武氏の息子さん宅へ伺い、掲載OKの承諾も得た、近く、ちまちま掲載作業を始めよう。



正月のテレビCMに「おせちもいいけどカレーもね」というのがあったが、これに做って「紙媒体も大事だけど、電子媒体もね」が、「おすすめ郷土資料」の精神というか、モットーというか…。一番の利点は、登別市立図書館に足を運ばずとも、ネット環境があれば、全国どこからでも読むことができること。おまけ

に制作費がほぼゼロ。今や、漫画本もインターネットで読む時代だが、郷土史関連本だけは、その地域が発信しなければモニターやスマホで見られない。

もっとも、探訪、点描合わせて310頁に及びテキスト入力に完結するのは今夏か、それとも年の暮れか、根気、元気、本気の三拍子が必要なようで。

祝 おじさんズ2号どの

今は活動休止中の「おじさんズ」3人組だが、私3号の先輩2号（と勝手に私が名付けている）なる人物が、伊達市在住の「まさとしさん」。ここ最近、お祝いのパンパカパ〜ン花火を打ち上げたくなるニュースがご本人に相次ぎ、おそらく、ご満悦の日々とお慶び申し候です。

慶賀その①

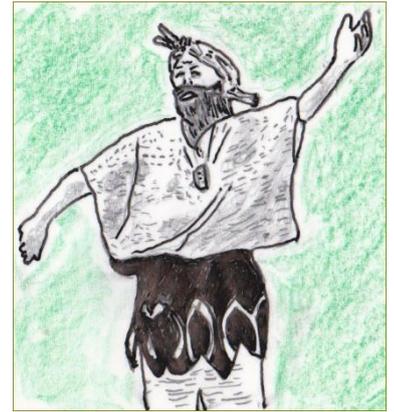
国指定史跡・北黄金貝塚（伊達市）でボランティアガイドを行っている「オコンシベの会」。そのメンバーとして「おじさんズ2号」は毎年、来訪する小中学

生を相手にガイド役と務めてきました。時には、ハーモニカ演奏も交えるなど、得意の話術を駆使して遺跡を解説。元プロの劇団員らしい力量を発揮して4年を数えました。

その北黄金貝塚が2021年7月、世界遺産に登録されたニュースは、皆さん、どこかで耳にしたはず。新型コロナ禍で、ガイドは休止中のようにですが、地道な活動が認められての世界遺産登録です。心より、おめでとうございます。

慶賀その②

これも北黄金貝塚関連のハナシ。毎年夏、ここを舞台に「だて噴火湾縄文まつり」がコロナ禍前まで開催されてきましたが、好評の「シャーマンショー」に出演してきたのが「おじさんズ2号」。



illust by 3号

「あ〜、ほりゃあ〜、△×○*◆※〜」と発音明瞭、意味不明な縄文言語を発したか、否かは定かではありませぬが、やんやの喝采を浴びたこと、間違いなし。

その「縄文まつり実行委員会」がこのほど、室蘭民報など地方新聞46紙と共同通信社が、地域活性化の取り組みを表彰する第12回地域再生大賞の優秀賞に輝きました。この褒賞イベント、46社の地方紙に受賞団体がすべて紹介されるので、いわば全国に「だて縄文まつり」をPRする結果になります。きっと、今後の励みになるでしょう。Congratulations!

薫風 烈風

▶2月入り。すっかり黒ずんだ柿の実を、ヒヨドリをつがい毎日やってきてはついばんでいます。その樹に登った野良猫は、やはり柿の実を目当てに降りたとうとしたカラスをネコ・パンチで追い払う、生き物たちの小さなドラマが庭先で繰り広げられています。

▶市役所庁舎の建て替えなど、このマチの公共施設をめぐる新築、改築の動きが活発化しています。そこで気になるのが、50年前前に開館した図書館本館の新築先送り。「新図書館はなぜ建たないのか」なるタイトルで一筆啓上しようかな？ 皆さん、お元気で〜。